

<白金標準、目先のピークアウトを受けた修正波動へ・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領は、8月1日の銅に対する関税の内容を発表し、前日までにすべての銅製品に50%の関税が課せられるとの思惑が外れ、輸入される銅線や銅管など一定の加工工程を終えた銅の半製品や銅を多く含むケーブルや電気部品などの製品などに50%の関税を課する文書に署名している。そのためプラチナに対する関税思惑が外れ、NY市場で銅価格が18%下落を示す中で、NY白金も7%の下落を見せている。特に16日以降、NYマーカントイル取引所の指定倉庫の在庫量が8.5トンから31日には16.8トンまで増加しており、関税を狙ったロンドン市場からNY市場へ移動させた動きに思える。特に今回の発表でロンドン市場のプラチナ・リースレートは20%から一挙に10%以下まで低下しており、市場におけるひっ迫感が緩和している。そのためNYマーカントイル取引所のプラチナ指定倉庫の16.8トンまで増加した在庫が今後減少する可能性は高く、在庫と価格の相関関係が存在するため、1250ドルを割り込むまでNY白金は下落する可能性は否めない。特に白金標準先物も6319円から先週末には5686円まで下落しており、関税の支えを無くした相場だけに5553円に向けた下値模索に注意が必要と思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の週足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルは上昇している。またRCIでは短期が下げながら、長期は上昇している。特に週足が10週移動平均線を下回るなど、修正の域に思え戻り売りには注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,880,000 円(2025 年 8 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2025 年 8 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>